

## 兼山歴史民俗資料館だより

○ ロビーにて、写真パネル展「美濃金山城跡の調査を振り返る」を開催します。

期間 平成 25 年 6 月 29 日～7 月 25 日

### ○ 寄贈資料の紹介

藤掛鉄店に伝わった看板と袴です。同店は、明治初め頃から操業し、荷車の車輪や農具などの製作・販売を行っていました。看板は木板に黒漆が施され、商品の見本となる刀やノミ、カンナの实物が取り付けられていたようです。袴の胸の部分には、家紋の「舵紋」が染め抜かれています。

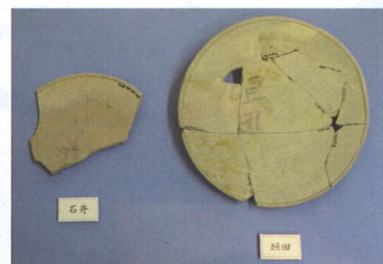


藤掛十三郎様寄贈

## 収蔵資料の紹介

### ○ 可児の地名が記された「墨書須恵器」

柿田遺跡からは、墨で文字が記された須恵器が出土しています。8世紀頃と考えられるこの土器には、「垣田」や「石井」という文字が記されています。柿田・石井は現在も地名として残ります。これらは、現在の柿田地区で出土したことから、少なくとも、出土地周辺が8世紀頃から「カキダ」と呼ばれていたことを示す貴重な資料です。



### ○ 地芝居の衣裳

地芝居は、江戸時代の頃より東濃地域で盛んに行われました。市域には、その名残を示す宮舞台などが残っています。平成10年には、明治初期から昭和30年代まで操業していた、菅刈の貸衣裳屋山形屋の資料群が可児市に寄贈されました。

写真の衣裳は、姫役が着用する襦袢(うちかけ)です。歌舞伎に登場する姫は、豪華な刺繍(ししゅう)などが施された赤地の着物を着ることが多いため、「赤姫」とも呼ばれます。金糸を用いて表現された桜が、衣裳の全面に施されている豪華な衣裳です。



襦袢衣裳

市では、山形屋資料をはじめ、市域に関わる地芝居の資料集を発行しています。



- ・ 可児市歴史文化調査報告書1「可児市の地芝居資料集」  
価格 2000 円
- ・ 販売所 可児郷土歴史館、  
市役所地域振興課

## 資料の寄贈・寄託

### ○ 寄贈資料

平成 25 年 1 月から 6 月までに、次の方々から貴重な資料を郷土歴史館に寄贈いただきました。圓藤博様、佐藤公一郎様、松井早苗様ありがとうございました。

〒509-0224 可児市久々利 1644 番地 1  
TEL 0574-64-0211 FAX 64-0238  
Eメール kyodorekisikan@city.kani.lg.jp

## 可児郷土歴史館

- 開館時間／午前 9 時～午後 4 時 30 分 ●休館日／月曜日、祝日の翌日、12 月 26 日～1 月 5 日
- 入館料／大人 310 円 (30 名以上の団体 250 円)、高校生以下 無料

# 可児郷土歴史館だより

No.23

2013.6.28

可児郷土歴史館

## 収蔵品 紹介

可児市久々利の大萱、大平には、安土桃山時代から江戸時代にかけて多くの窯が築かれました。黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部といった焼き物は、美濃の代名詞として、全国に知られています。今回は、志野山景色輪花鉢と織部梅樹絵菊形皿を紹介합니다。

### 志野山景色輪花鉢

16～17世紀 口径20.6～20.3cm 高8.3cm

やわらかな器形に、口縁部をリズムカルな輪花に仕上げる。ほどよい焼き上りで緋色も見られ、幽かな山景色が浮かんでいる。裏面3ヶ所に半環足を付け、表面にトチ痕が3つ残る。



### 織部梅樹絵菊形皿

17世紀 口径 20.0 cm 高さ 3.0 cm

ロクロ引き後、菊花形に型打ちされる。口縁の一部に、型打ちの際に当たった布目が残る。「弥七田織部」特有の薄作りで、赤楽と銅緑釉の発色が美しい。表面に円錐ピン痕が5つ、裏面の輪高台の内側に輪トチ痕がある。



# 企画展 身近なこん虫たち

期間 7月2日(火)～9月1日(日)

可児郷土歴史館では、夏の企画展を開催します。「身近なこん虫たち」を通して、自然や生物を観察してみませんか。

## ◎関連企画

### ★こん虫クイズに挑戦 (小学生対象)

こん虫標本を観察して、クイズに挑戦！  
参加者には、**こん虫のシール**をプレゼント。

### ★里山探検

久々利の里山探検～雑木林や草原で  
こん虫たちに出会えるかな？

・日時 7月6日(土) 午前8時30分～11時頃

\*市内の小学生対象 (保護者同伴)

\*詳細は、可児郷土歴史館にお問い合わせ下さい。

\*久々利公民館共催



●開館時間 午前9時～午後4時30分

●休館日 毎週月曜日。ただし、7月15日(月・祝日)は開館、翌16日が休館となります。

### ●主な展示品

岐阜県内や市内で採集された、こん虫標本約30箱を展示します。観察コーナーでは、こん虫の標本を、拡大鏡を使ってじっくり観察できます。  
\*8月11日以降は内容が変更します。



## 夏休み企画

古民家探検～昔の道具を調べよう～

昔の道具に触って、クイズに答えよう。

参加者は、石臼でひいたきな粉がもらえるよ。

・日時 7月23日(火)～7月28日(日)

午前9時～午後4時30分

\*小学生対象です。

\*事前申し込みは不要です。

\*保護者の方は入館料(310円)が必要です。

常設展の  
お知らせ

## 荒川豊蔵作品を 展示中

可児市は、(財)豊蔵資料館から「豊蔵資料館」の寄贈を受けました。現在は、施設の一部の修繕工事のため閉館し、10月に再オープン予定です。

これにともない、可児郷土歴史館では、荒川豊蔵によって発見された「志野のふるさと」を示す筒絵陶片とともに、豊蔵の代表的な作品3点を展示しています。

また、豊蔵は日記を綴るように、スケッチブックに季節の風物や、人々との交流といった日々の記録を描きとめていました。これらのスケッチブックも併せて展示しています。

画家を志したこともある豊蔵によって描かれた可児の里山や季節の風物は、作陶活動にも反映されており、豊かな感性が凝縮された作品です。

是非、この機会にご観覧ください。



### ●出品作品

- ・志野筒絵陶片
- ・志野蔵絵茶碗(銘 早春、写真上)
- ・瀬戸黒茶碗(銘 花ノ木、写真下)
- ・黄瀬戸竹花入
- ・荒川豊蔵 スケッチブック
- ・荒川豊蔵画「なすび」

## 陶芸苑だより

作陶を支える技 ～絵付け～

陶芸苑は、市民に広く陶芸文化の普及を図る目的で建てられ、定期的に陶芸教室を開いています。作陶の工程は概ね、成形→削り→乾燥→絵付け→焼成です。今回は、絵付けについて紹介します。

絵付けには、「彩色」と「施釉」があります。当苑は、赤・青・黄・白・黒・緑の6色の釉薬を備えています。釉薬をたっぷり筆に含ませ素地肌(すぢ)に絵を描いたり、竹べら等による線描きに釉薬を乗せたりして、色彩豊かな作品を作ります。また、全体に釉薬を掛けると表面にガラス質の膜ができて陶器を丈夫にし、防水性に効果があります。

施釉には、釉薬を入れた桶に作品をどっぴりと漬ける「ずぶがけ」や、柄杓で作品に釉薬をかける「流しがけ」などがあります。「ずぶがけ」は、浸した後すばやく引き上げ余分な釉薬を落とします。ゆっくり行くと素地が水気を含み、せつかくの成形が台無しとなりかねません。失敗が許されない緊張を伴う作業です。2種の釉薬を塗り分けたり一部を重ね塗りしたりすることで、色合いの違いや変化を楽しむこともできます。

いずれにしても、絵付けは、素地肌をキャンパスに見立て、自分の描きたいものを書く工程です。陶芸教室を受講される方の目は輝き、生き生きとしています。

